

特集

平成25年度決算

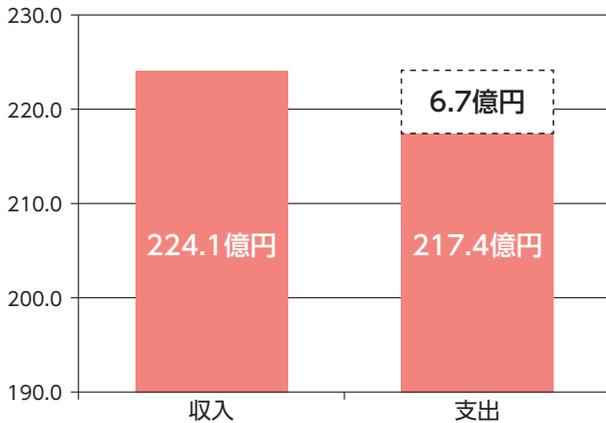
登別市の台所事情



問い合わせ 財政グループ (☎ 011-1331)

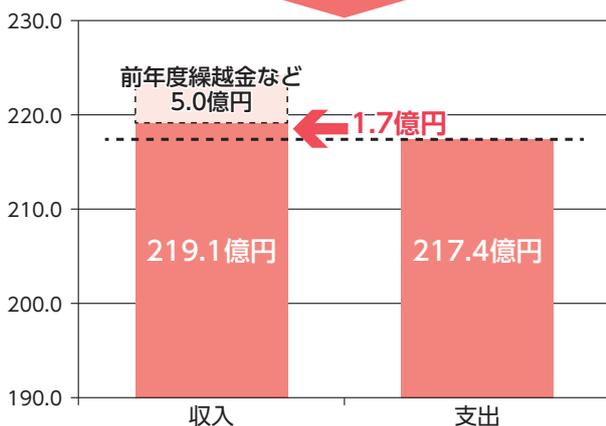
市は、5月31日をもって平成25年度予算の未払金や未収金を整理する期間を終え、すべての支払いや収入を終えました。
今号では、皆さんの税金がどのように使われたかなど、平成25年度決算についてお知らせします。

平成25年度の決算状況



※黒字額6.7億円には、翌年度繰越事業の財源0.2億円を含む。

平成25年度単年度で考えると…



一般会計

平成25年度の台所事情

一般会計とは、税金などを財源に、福祉や教育など市の基本的な事業を行うための会計です。

6・7億円の黒字を確保(単年度では1・7億円の黒字)

平成25年度の収入は224・1億円、支出は217・4億円で、収入と支出の差し引きでは、6・7億円の黒字となりました。
しかし、平成25年度の収入のうち、5・0億円は前年度からの繰越金であるため、純粋な平成25年度の収入は219・1億円となります。
このため、平成25年度の単年度で考えると、1・7億円の黒字ということになります。

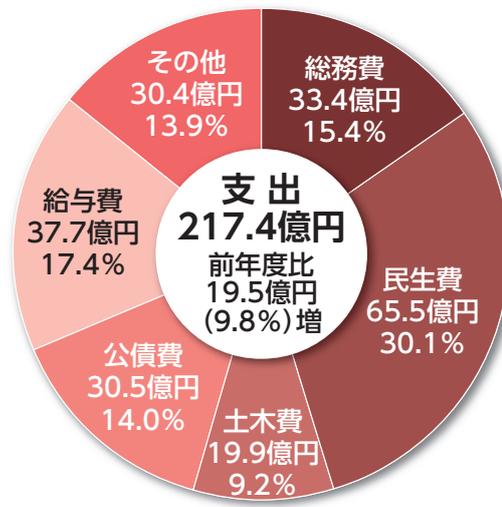
特集

登別市の台所事情

【総務費】 土地開発公社解散事業費の増などにより、昨年度に比べ25.9億円（341.8%）の増

【土木費】 北海道からの受託事業の道道改良事業の減などにより、昨年度に比べ1.8億円（8.3%）の減

- **総務費** 市の全般的な管理などの経費や、戸籍や統計業務などに使われたお金です
- **民生費** お年寄りや子どもなどの福祉のために使われたお金です
- **土木費** 道路や公共施設などの整備や維持に使われたお金です
- **公債費** 道路や公共施設などを整備するために借り入れた借金を返済するためのお金です
- **給与費** 職員に給料やボーナス、退職手当などを支払うためのお金です



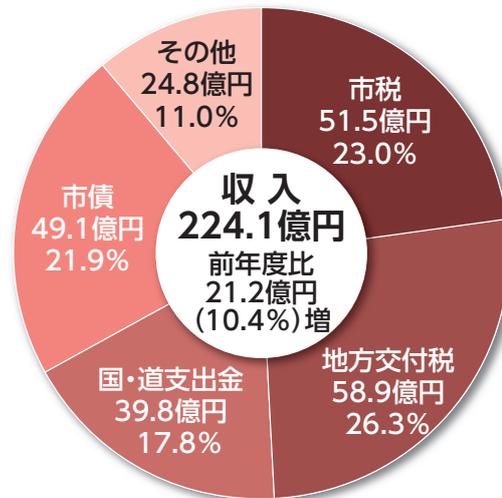
■ 支出の状況
平成25年度の支出額は、昨年度に比べ19・5億円増の217・4億円

【市税】 たばこ税の増などにより、昨年度と比べ0.3億円（0.5%）の増

【国・道支出金】 北海道からの道道改良事業の委託金収入の減などにより、昨年度に比べ1.6億円（3.8%）の減

【市債】 土地開発公社解散事業の増などにより、昨年度に比べ25.9億円（112.1%）の増

- **市税** 市民の皆さんから納入していただいた税金です
- **地方交付税** 市町村の規模や税収に応じて国から交付されたお金です
- **国・道支出金** 特定の事業に使うため国や北海道から交付されたお金です
- **市債** 道路や公共施設などを整備するため国や銀行から借り入れた借金です



■ 収入の状況
平成25年度の収入額は、昨年度に比べ21・2億円増の224・1億円

特別会計

特別会計とは、一般会計とは別に、保険料や使用料を財源に、国民健康保険や介護保険、下水道事業など、特定の事業を行うための会計です。

すべての会計で黒字を確保

(単位：億円)

会計	国民健康保険特別会計	学校給食事業特別会計	公共下水道事業特別会計	簡易水道事業特別会計	介護保険特別会計	カルルス温泉スキー場事業特別会計	後期高齢者医療特別会計
歳入	66.6	3.5	24.8	0.3	31.1	1.1	6.6
歳出	65.6	3.5	24.3	0.3	30.4	1.1	6.6
収支	1.0	0.0	0.5	0.0	0.7	0.0	0.0

市の借金はどうなっているの？

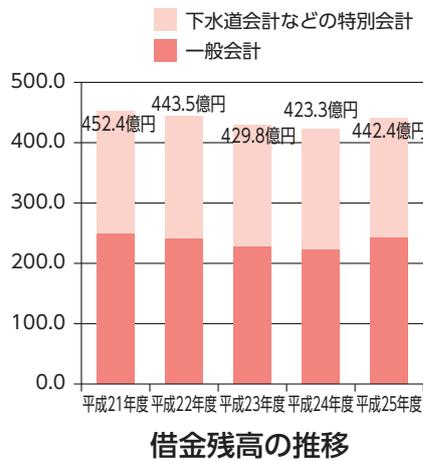
市の借金の残高は昨年度に比べ増加、返済額は減少

市は、道路や公共施設など、将来にわたって利用される大規模な施設を整備するときには、国や銀行から長期間で返済する資金を借り入れており、これらは市の借金に当たります。

市の借金残高は、土地開発公社解散事業のために25億円の借り入れを行ったことなどにより、昨年度末に比べて、19・1億円増加しました。

また、平成25年度の借金の返済額（公債費）は45・4億円（一般会計30・5億円と下水道会計などの特別会計14・

9億円）に上り、市の支出の中で大きな割合を占めています。



市には貯金がどれくらいあるの？

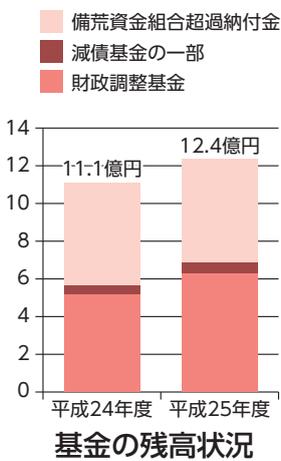
自由に使っている貯金は昨年度末に比べ1・3億円増加

市は、万一のときの備えや特別な用途に使うことを目的に、17の基金などに積み立てをしています。

このうち、台所事情が苦しいときなどに自由に使うことができる基金などは、財政調整基金、減債基金の一部、北海道市町村備荒資金組合超過納付金の3種類で、市がもしものときに使うことができる貯金に当たります。

平成25年度末のこれら貯金の残高は、当初取り崩しを予定していた3・8億

円の取り崩しを取り止めたことから、合計で12・4億円となり、昨年度末の残高に比べて1・3億円増加しました。



これからの市の台所事情

平成26年度予算では5・4億円の財源不足

平成26年度の予算（一般会計）では、201・9億円の支出に対して、196・5億円の収入しか見込めず、5・4億円の収支不足が生じます。

この収支不足については、全額を貯金の取り崩しで埋める予定をしており、今後、財政が好転せず、収支不足が解消されない場合には、平成26年度末の貯金の残高は7・0億円まで減少してしまいます。

そのため、平成26年度の財政運営に当たっては、少しでも収支不足額を少なくし、貯金を下ろさなくて済むよう、適切に収入を確保することはもちろん、無駄な支出がないかチェックを重ねるなどの努力をしています。

今後も、高齢者人口の増加により社会保障費が増加することや、老朽化した公共施設の整備などに多くのお金を要することなどが見込まれます。

また、市民の皆さんから納入していたたかく税金は、人口減少の影響から、今後大きく増やすことは難しい状況で、国から交付される地方交付税も、国の財政状況から

大きく減りされることが心配されるなど、市を取り巻く環境はいつそつ厳しさを増すことが予想されます。

そつした中であつて、市民の皆さんが必要とするサービスを安定的に提供していくためには、サービスの効率性を常に検証し改善していくことはもちろん、時代の変化により不要となったサービスの見直しなどにも積極的に取り組まなければならないと考えています。

